

I 調査結果の概要

1 青果物の卸売動向

平成17年(1～12月)の全国の青果物卸売市場における取扱いの状況は以下のとおりとなった。(表1)

(1) 野菜

野菜の卸売数量は1,195万tで、前年に比べ1%減少した。

これは、はくさい、レタスが前年に比べそれぞれ3%、5%増加したものの、前年の台風被害の影響等から、にんじんが作付の遅れや生育の抑制により前年に比べ7%減少したことや、キャベツが葉の損傷等により生育が抑制されたことから4%減少したことなどによる。

卸売価格は1kg当たり平均181円で、前年に比べ7%低下した。

これは、はくさいやレタスが卸売数量の増加により安値であったことや、10月から12月における野菜の卸売価格が、台風の影響等により全体的に高値で推移した前年に比べ安値であったことなどによる。

卸売価額は2兆1,626億円で、前年に比べ8%減少した。

(2) 果実

果実の卸売数量は500万tで、前年に比べ1%増加した。

これは、ハリケーンによる被害の影響から、アメリカ産グレープフルーツの輸入が大幅に減少したものの、日本なし、かき、もも、ぶどうが気象災害も少なく生育が順調で増加したことなどによる。

卸売価格は1kg当たり平均245円で、前年に比べ6%低下した。

これは、台風の影響により高値であった前年に比べ、みかん、かき、日本なしの卸売価格が大幅に低下したことなどによる。

卸売価額は1兆2,253億円で、前年に比べ6%減少した。

表1 青果物卸売数量・価額・価格

単位 { 数量：万 t
価額：億円
価格：1 kg 当たり円

区 分		実 数			対 前 年 比 (%)		
		平. 15	16	17	平. 15	16	17
計	卸 売 数 量	1 767	1 701	1 696	97	96	100
	卸 売 価 額	36 078	36 377	33 879	100	101	93
野 菜	卸 売 数 量	1 244	1 205	1 195	98	97	99
	卸 売 価 額	23 345	23 406	21 626	102	100	92
	卸 売 価 格	188	194	181	104	103	93
果 実	卸 売 数 量	522	496	500	93	95	101
	卸 売 価 額	12 733	12 971	12 253	95	102	94
	卸 売 価 格	244	261	245	102	107	94

図1 野菜の卸売数量と卸売価額の推移

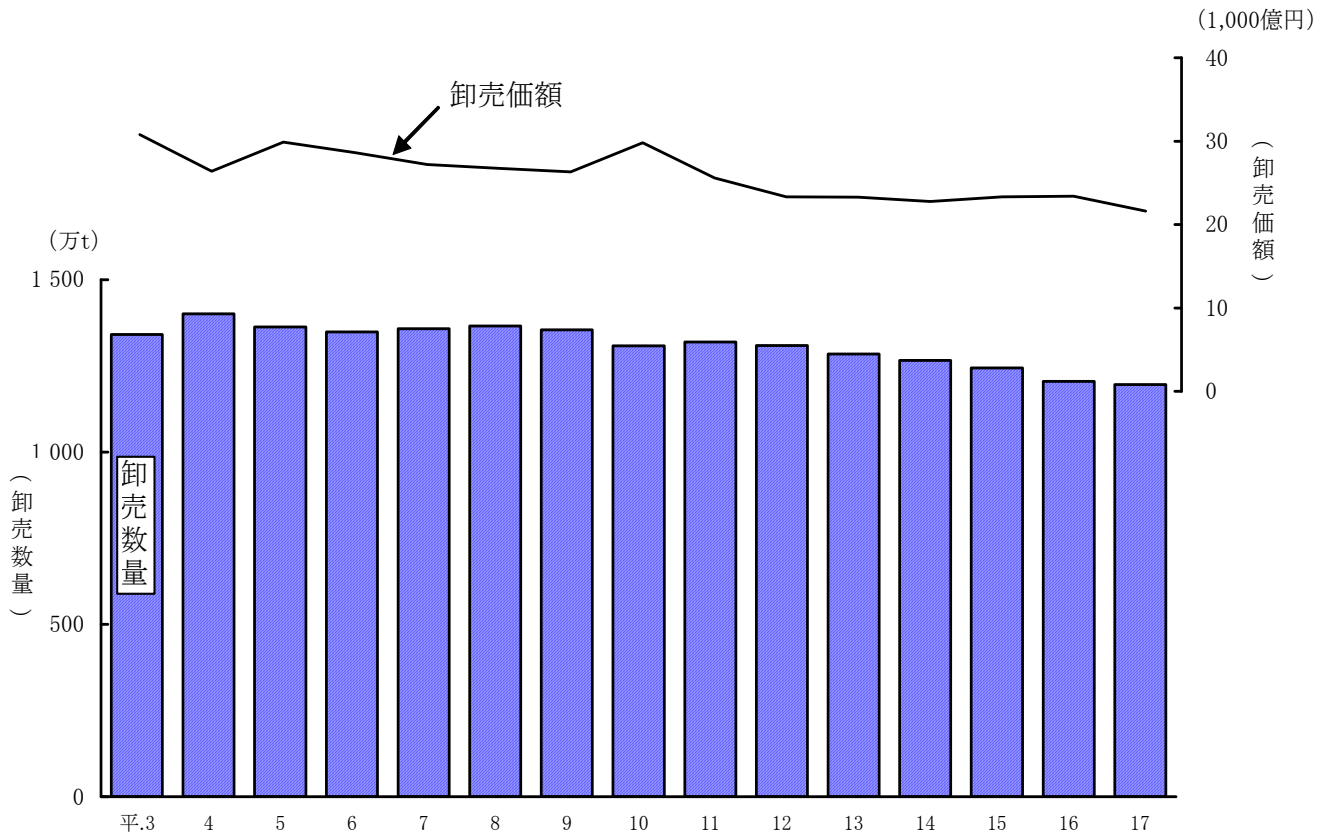
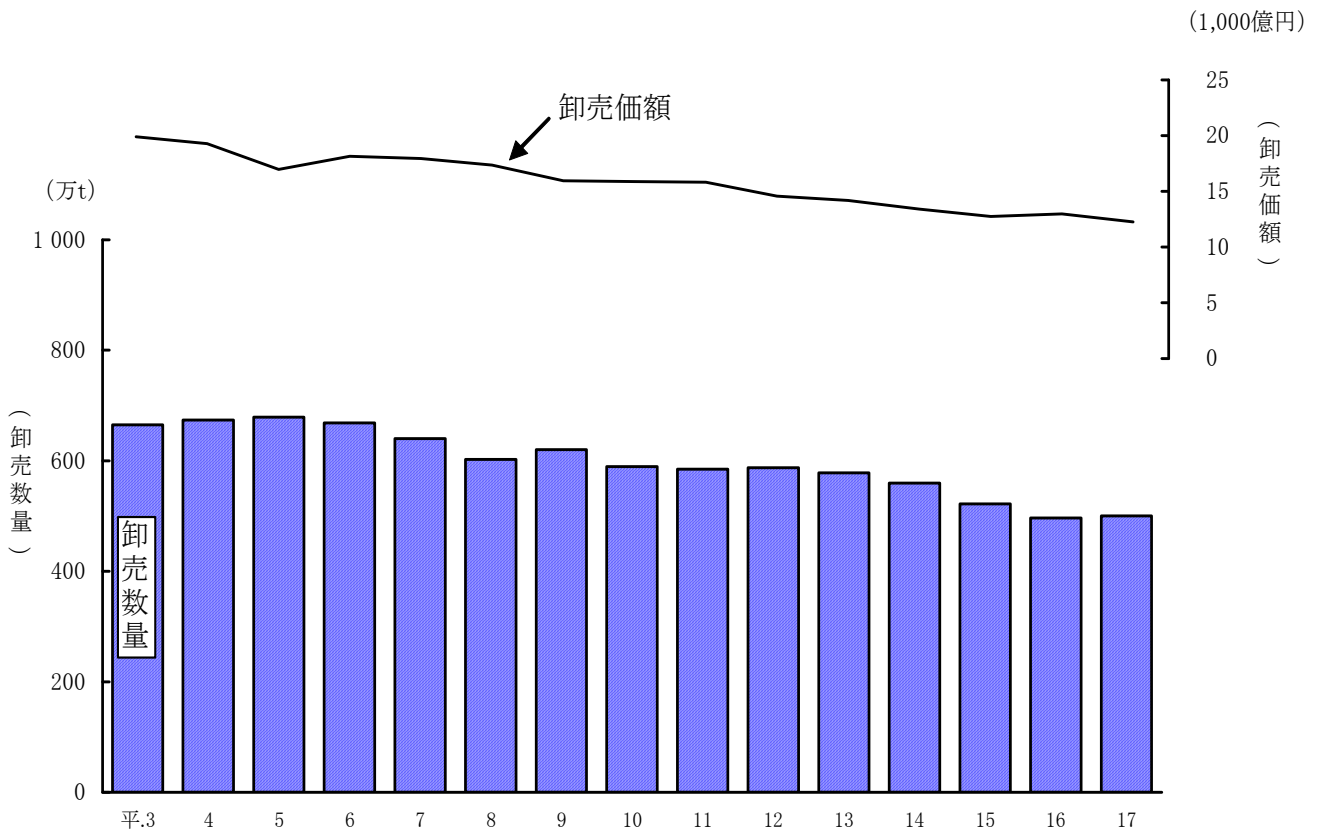


図2 果実の卸売数量と卸売価額の推移



(3) 主要都市*の市場における輸入野菜の動向（表2、3）

ア 卸売数量は43万tで、前年に比べ12%増加した。

これは、かぼちゃがニュージーランド産の入荷量の増加から、前年に比べ13%増加したことや、たまねぎが中国産やアメリカ産の入荷量の増加から、前年に比べ57%増加したことなどによる。

イ 輸入割合（各品目の卸売数量の総量に占める輸入の割合）の高い品目は、にんにく（69.1%）、さやえんどう（57.5%）、かぼちゃ（45.9%）、しょうが（36.8%）、ブロッコリー（34.1%）等となっている。

※ 主要都市とは、①人口20万人以上で、かつ青果物の年間取扱量がおおむね6万t以上の都市、②県庁所在都市及び中央卸売市場が開設されている都市をいい、人口等により1類都市と2類都市に区分している。（1類都市、2類都市の基準の詳細は「利用者のために」を参照。）
 なお、輸入野菜については、主要都市の市場計のみであり全国計の推定は行っていない。（以下同じ。）

表2 主な輸入野菜の卸売数量と輸入割合

品目	卸売数量						輸入割合		
	平. 15		16		17		平. 15	16	17
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比				
輸入野菜計	387	110	384	99	430	112	4.2	4.3	4.9
うち、									
にんじん	13	202	14	109	31	217	2.3	2.5	5.8
ごぼう	17	79	14	84	12	86	14.1	11.3	10.0
たけのこ	3	95	3	88	3	99	15.0	13.3	16.4
キャベツ	3	203	10	372	12	115	0.2	1.0	1.1
ねぎ	22	116	32	148	30	96	7.6	11.4	10.9
アスパラガス	9	91	8	94	8	103	30.4	29.7	30.6
ブロッコリー	35	79	36	103	31	86	32.4	37.1	34.1
かぼちゃ	116	108	93	80	105	113	48.3	43.4	45.9
ピーマン	11	97	11	105	12	108	8.1	8.2	9.1
さやいんげん	1	173	1	137	1	93	4.8	7.6	6.9
さやえんどう	12	96	12	106	11	86	57.1	61.9	57.5
さといも	5	103	6	104	6	104	6.1	6.6	7.1
たまねぎ	62	197	62	100	97	157	6.5	6.5	10.6
にんにく	17	104	17	102	17	99	61.9	68.1	69.1
しょうが	18	107	16	91	15	91	40.9	39.1	36.8
生しいたけ	18	95	17	98	14	84	31.5	30.7	27.4

ウ 国産品と輸入品の卸売価格を比較すると、国産品との価格差が大きい品目は、にんにく（11%）、さやえんどう（32%）、生しいたけ（33%）、ねぎ（42%）、ごぼう（46%）等となっている。

表3 主な野菜の国産品と輸入品の卸売価格

単位：1kg当たり円

品目	平. 15			16			17		
	卸売価格		国産品を100とした輸入品の価格比	卸売価格		国産品を100とした輸入品の価格比	卸売価格		国産品を100とした輸入品の価格比
	国産品	輸入品		国産品	輸入品		国産品	輸入品	
			%			%			%
にんじん	117	90	77	112	77	69	125	78	62
ごぼう	247	141	57	197	118	60	175	80	46
たけのこ	358	291	81	278	366	132	351	349	99
キャベツ	83	85	102	91	73	80	87	76	87
ねぎ	323	143	44	349	135	39	312	130	42
アスパラガス	949	644	68	949	698	74	939	692	74
ブロッコリー	264	247	94	320	237	74	366	264	72
かぼちゃ	139	100	72	149	145	97	133	114	86
ピーマン	336	572	170	320	517	162	317	523	165
さやいんげん	662	711	107	737	575	78	668	583	87
さやえんどう	957	272	28	984	267	27	938	303	32
さといも	194	113	58	178	101	57	180	104	58
たまねぎ	95	76	80	91	67	74	97	65	67
にんにく	885	132	15	1 188	142	12	1 159	132	11
しょうが	555	180	32	576	282	49	537	255	47
生しいたけ	1 014	301	30	944	276	29	967	318	33

参考1 主な野菜の輸入国と輸入数量割合（平成17年計）

上段：輸入国名
下段：数量割合（%）

品目	1位	2位	3位	4位	5位
にんじん・かぶ	中国 89.5	オーストラリア 4.0	台湾 3.3	ニュージーランド 2.8	アメリカ 0.4
ごぼう	中国 89.0	台湾 11.0			
キャベツ他	中国 86.0	韓国 13.6	台湾 0.3	ベトナム 0.0	オランダ 0.0
ねぎ	中国 99.9	韓国 0.1	アメリカ 0.0		
アスパラガス	タイ 22.4	オーストラリア 21.9	メキシコ 20.3	フィリピン 17.2	アメリカ 9.0
ブロッコリー	アメリカ 72.9	中国 26.4	オーストラリア 0.6	メキシコ 0.1	カナダ 0.0
かぼちゃ	ニュージーランド 68.6	メキシコ 17.3	トンガ 10.4	ニューカレドニア 1.6	オーストラリア 1.0
ピーマン	韓国 68.6	オランダ 19.6	ニュージーランド 11.8	アメリカ 0.0	
ささげ・いんげん まめ属の豆	オマーン 77.9	中国 17.9	アラブ首長国連邦 4.1	韓国 0.0	
えんどう	中国 99.2	タイ 0.6	香港 0.3		
さといも	中国 100.0				
たまねぎ	中国 61.5	アメリカ 23.0	ニュージーランド 11.0	タイ 2.5	オーストラリア 1.8
にんにく	中国 99.8	アメリカ 0.2	台湾 0.0	タイ 0.0	フランス 0.0
しょうが	中国 98.6	タイ 0.9	インドネシア 0.4	ベトナム 0.1	ミャンマー 0.0
しいたけ	中国 100.0				

資料：財務省「貿易統計」

注：「ピーマン」は、厚肉大果種のものである。

2 主要品目の動向

(1) 野菜

表4 主要野菜の卸売数量

区 分	卸 売 数 量 (万 t)			対 前 年 比 (%)		
	平. 15	16	17	平. 15	16	17
野 菜 計	1 244	1 205	1 195	98	97	99
うち、						
だいこん	123	116	116	99	94	101
にんじん	76	76	71	98	100	93
はくさい	102	96	99	99	94	103
キャベツ	148	143	138	101	96	96
ほうれんそう	21	18	18	100	83	103
ねぎ	40	40	39	100	98	98
レタス	65	61	64	100	94	105
きゅうり	64	63	61	96	99	97
なす	35	35	35	95	100	99
トマト	66	64	64	99	96	100
ピーマン	17	18	18	98	103	98
ばれいしょ	80	78	78	95	96	100
さといも	13	12	11	104	97	94
たまねぎ	124	123	120	94	99	97

注：トマトについては、ミニトマトを含む。(以下、表5、6において同じ。)

表5 主要野菜の卸売価額

区 分	卸 売 価 額 (億円)			対 前 年 比 (%)		
	平. 15	16	17	平. 15	16	17
野 菜 計	23 345	23 406	21 626	102	100	92
うち、						
だいこん	986	1 038	870	101	105	84
にんじん	867	832	850	106	96	102
はくさい	612	723	553	105	118	77
キャベツ	1 201	1 276	1 170	111	106	92
ほうれんそう	800	825	740	103	103	90
ねぎ	1 191	1 232	1 090	101	103	88
レタス	1 120	1 170	959	104	104	82
きゅうり	1 557	1 512	1 363	96	97	90
なす	1 044	967	876	99	93	91
トマト	1 921	2 052	1 941	94	107	95
ピーマン	608	594	579	103	98	97
ばれいしょ	929	917	922	131	99	101
さといも	228	201	195	94	89	97
たまねぎ	1 180	1 113	1 109	141	94	100

表6 主要野菜の卸売価格

区 分	卸 売 価 格 (1kg当たり円)			対 前 年 比 (%)		
	平. 15	16	17	平. 15	16	17
野 菜 計	188	194	181	104	103	93
うち、						
だいこん	80	90	75	103	113	83
にんじん	114	110	120	108	96	109
はくさい	60	75	56	105	125	75
キャベツ	81	89	85	109	110	96
ほうれんそう	380	470	407	103	124	87
ねぎ	296	311	282	101	105	91
レタス	174	193	151	104	111	78
きゅうり	244	239	222	101	98	93
なす	295	273	249	104	93	91
トマト	289	320	302	96	111	94
ピーマン	349	331	330	105	95	100
ばれいしょ	116	118	119	140	102	101
さといも	180	165	170	91	92	103
たまねぎ	95	90	93	151	95	103

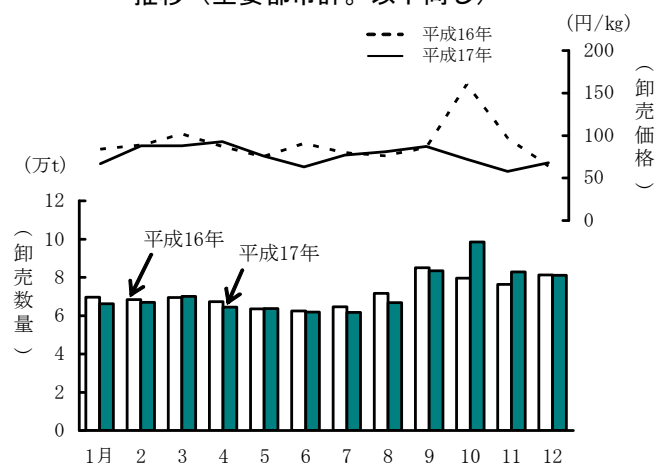
ア だいこん

平成17年の全国の青果物卸売市場における（以下同じ。）卸売数量は116万 tで、前年に比べ1%増加した。

これは、作付面積が減少したものの、10月以降、前年のような台風被害がなく順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、10・11月に入荷量が増加し、価格が低迷したことから、前年に比べ17%低下し75円となった。（表4・6、図3）

図3 だいこんの月別卸売数量と卸売価格の推移（主要都市計。以下同じ）



（青果物卸売市場調査「青果物流通統計月報」より。以下同じ）

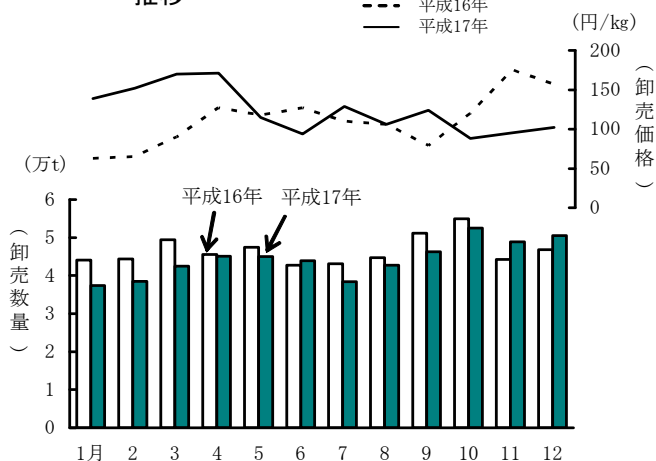
イ にんじん

卸売数量は71万 tで、前年に比べ7%減少した。

これは、前年の台風被害の影響等から作柄が回復せず、1～3月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が減少したことなどから、前年に比べ9%上昇し120円となった。（表4・6、図4）

図4 にんじんの月別卸売数量と卸売価格の推移



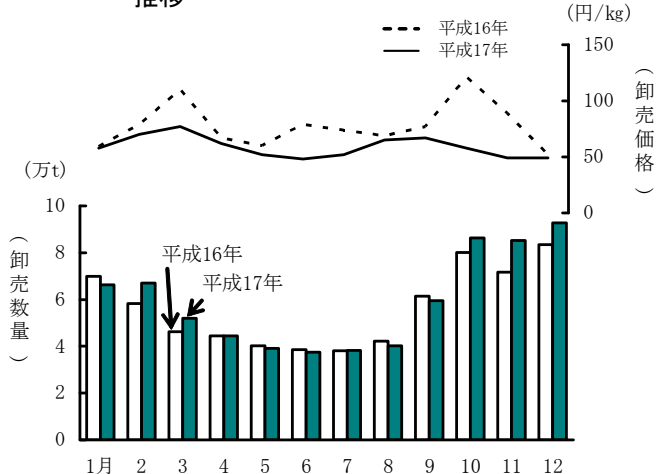
ウ はくさい

卸売数量は99万 tで、前年に比べ3%増加した。

これは、10月以降、前年のような台風被害がなく、順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことや、入荷量の増加などから、前年に比べ25%低下し56円となった。（表4・6、図5）

図5 はくさいの月別卸売数量と卸売価格の推移



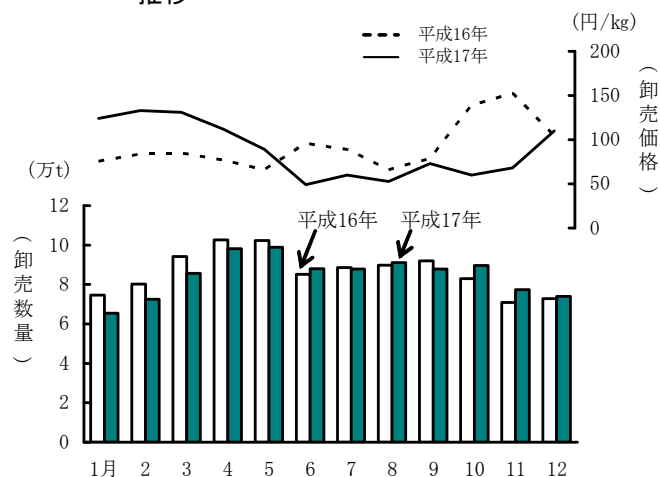
エ キャベツ

卸売数量は138万 t で、前年に比べ4%減少した。

これは、前年の台風被害による作付の遅れや、春キャベツが低温の影響により生育不良となったことなどによる。

卸売価格は、1～5月が入荷量の減少により高値となったものの、10・11月が全国的に豊作となり価格が低迷したことから、前年に比べ4%低下し85円となった。(表4・6、図6)

図6 キャベツの月別卸売数量と卸売価格の推移



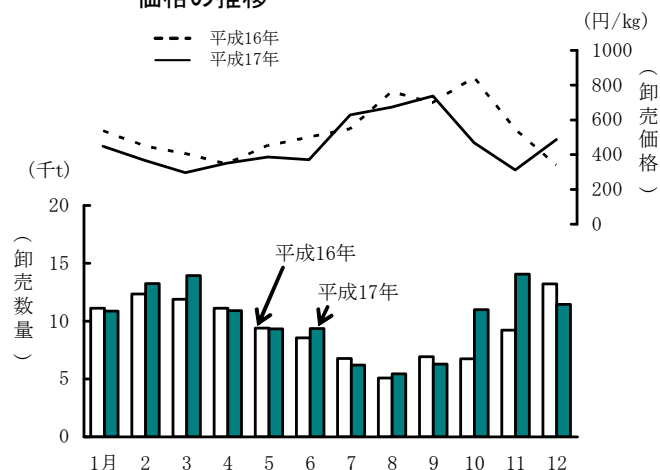
オ ほうれんそう

卸売数量は18万 t で、前年に比べ3%増加した。

これは、10・11月に前年のような台風被害がなく、順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ13%低下し407円となった。(表4・6、図7)

図7 ほうれんそうの月別卸売数量と卸売価格の推移



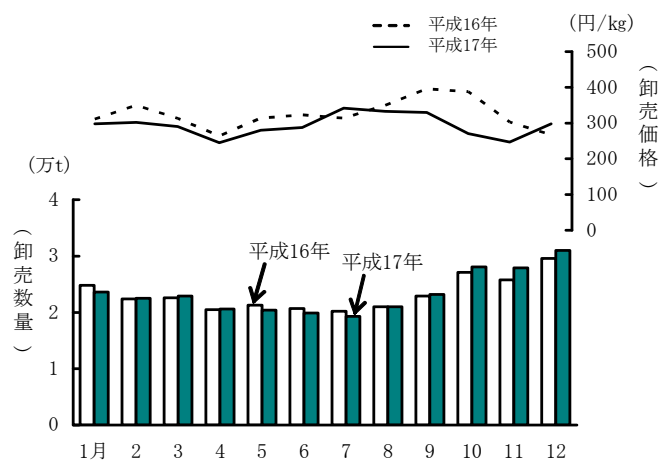
カ ねぎ

卸売数量は39万 t で、前年に比べ2%減少した。

これは、前年の台風被害による生育の遅れや品質の低下により、入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことなどから、前年に比べ9%低下し282円となった。(表4・6、図8)

図8 ねぎの月別卸売数量と卸売価格の推移



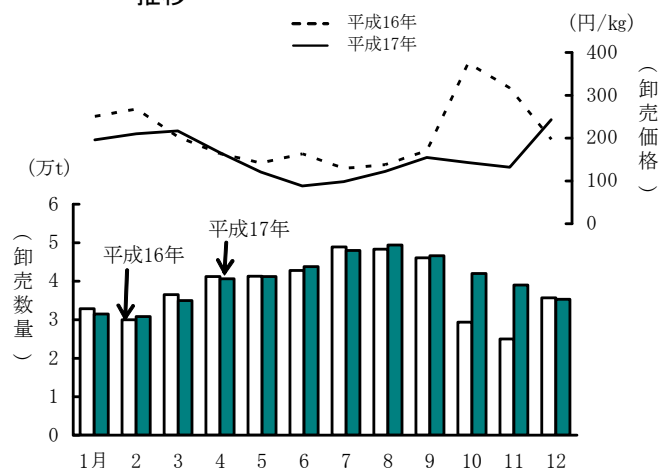
キ レタス

卸売数量は64万 t で、前年に比べ5%増加した。

これは、10・11月に前年のような台風被害がなく、順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことなどから、前年に比べ22%低下し151円となった。(表4・6、図9)

図9 レタスの月別卸売数量と卸売価格の推移



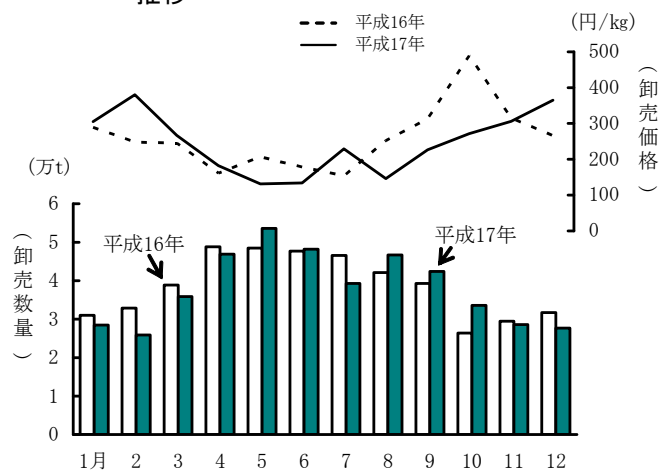
ク きゅうり

卸売数量は61万 t で、前年に比べ3%減少した。

これは、低温・日照不足等の影響により、1～4月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量の減少により、2月が高騰したものの、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことなどから、前年に比べ7%低下し222円となった。(表4・6、図10)

図10 きゅうりの月別卸売数量と卸売価格の推移



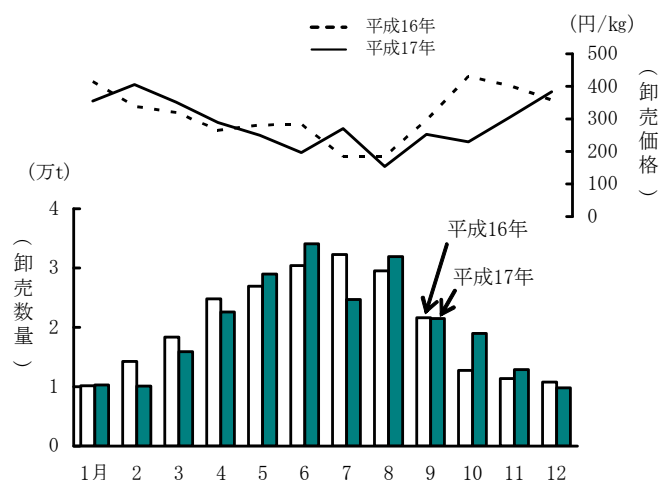
ケ なす

卸売数量は35万 t で、前年に比べ1%減少した。

これは、前年のような台風被害はなかったものの、低温・日照不足等の影響により2～4月の入荷量及び産地移行の谷間となった7月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことなどから、前年に比べ9%低下し249円となった。(表4・6、図11)

図11 なすの月別卸売数量と卸売価格の推移



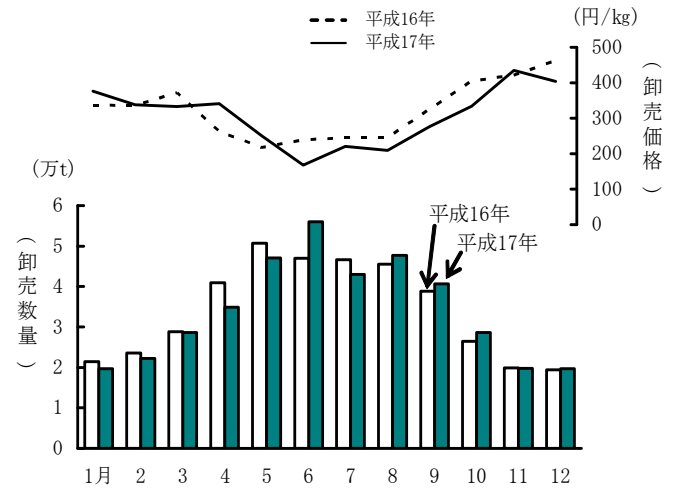
コ トマト（ミニトマトを含む。）

卸売数量は64万 tで、前年並みであった。

これは、低温による生育の遅れや作付面積の減少により4・5月の入荷量が減少したものの、前年のような台風被害や高温・干ばつ等の影響がなく、6月以降は順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、6月以降が順調な入荷となり、価格が前年を下回る月が多かったことなどから、前年に比べ6%低下し302円となった。（表4・6、図12）

図12 トマトの月別卸売数量と卸売価格の推移



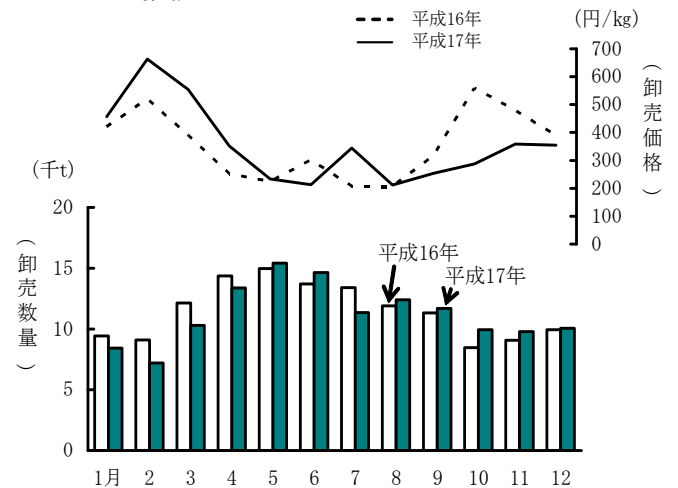
サ ピーマン

卸売数量は18万 tで、前年に比べ2%減少した。

これは、前年の台風の影響等による定植の遅れにより、1～4月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量の減少により、1～4月が高値で推移したものの、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことなどから、前年並みの330円となった。（表4・6、図13）

図13 ピーマンの月別卸売数量と卸売価格の推移



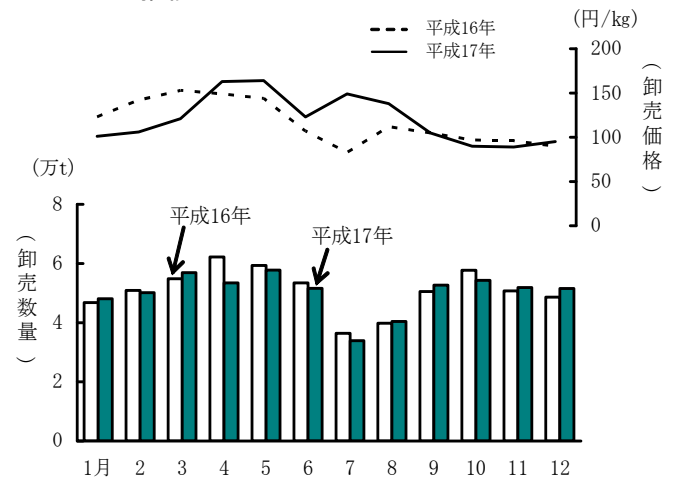
シ ばれいしょ

卸売数量は78万 tで、前年並みであった。

これは、九州産が1～3月においては順調な入荷となったものの、4～7月においては天候不順の影響で肥大不足となり入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、前年に比べ1%上昇し119円となった。（表4・6、図14）

図14 ばれいしょの月別卸売数量と卸売価格の推移



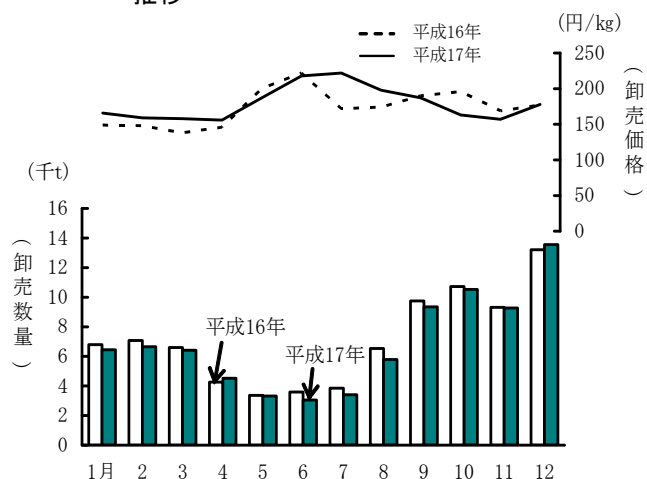
ス さといも

卸売数量は11万 t で、前年に比べ6 %減少した。

これは、高温・干ばつ等の影響により、6～10月にかけて肥大不足となり、入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が減少したことなどから前年に比べ3 %上昇し170円となった。
(表4・6、図15)

図15 さといもの月別卸売数量と卸売価格の推移



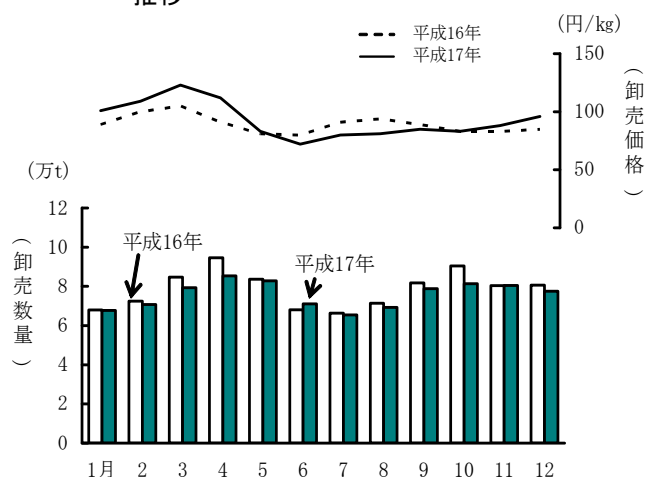
セ たまねぎ

卸売数量は120万 t で、前年に比べ3 %減少した。

これは、前年下半期の野菜高騰による前倒し出荷により2～4月の入荷量及び干ばつ等の影響により北海道産の8月以降の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が減少したことなどから前年に比べ3 %上昇し93円となった。
(表4・6、図16)

図16 たまねぎの月別卸売数量と卸売価格の推移



(2) 果実

表7 主要果実の卸売数量

区 分	卸 売 数 量 (万 t)			対 前 年 比 (%)		
	平.15	16	17	平.15	16	17
果 実 計	522	496	500	93	95	101
うち、						
み か ん	98	95	93	91	97	98
い よ か ん	14	12	13	76	87	107
り ん ご	71	63	64	92	89	101
日 本 な し	24	22	25	92	91	114
か も し き	20	18	21	95	87	121
も も	11	11	13	88	95	119
ぶ い ど う	14	13	13	96	89	106
い ち ご	19	18	18	98	95	97
メ ロ ン	27	25	25	93	94	99
す い か	47	44	44	93	94	100
バ ナ ナ	73	72	73	102	99	101
グ レ ー プ フ ル ー ツ	19	19	15	97	102	78
オ レ ン ジ	10	9	9	117	92	99

表8 主要果実の卸売価額

区 分	卸 売 価 額 (億円)			対 前 年 比 (%)		
	平.15	16	17	平.15	16	17
果 実 計	12 733	12 971	12 253	95	102	94
うち、						
み か ん	1 642	1 842	1 609	86	112	87
い よ か ん	200	197	200	90	98	102
り ん ご	1 473	1 577	1 549	106	107	98
日 本 な し	571	576	541	90	101	94
か も し き	376	437	339	90	116	78
も も	431	476	451	85	111	95
ぶ い ど う	812	795	760	91	98	96
い ち ご	1 918	1 762	1 863	99	92	106
メ ロ ン	1 097	1 046	954	95	95	91
す い か	614	714	617	90	116	86
バ ナ ナ	930	906	814	96	97	90
グ レ ー プ フ ル ー ツ	299	281	212	99	94	76
オ レ ン ジ	165	162	164	103	98	101

表9 主要果実の卸売価格

区 分	卸 売 価 格 (1kg当たり円)			対 前 年 比 (%)		
	平.15	16	17	平.15	16	17
果 実 計	244	261	245	102	107	94
うち、						
み か ん	167	193	172	94	116	89
い よ か ん	142	160	153	118	113	96
り ん ご	207	249	241	114	120	97
日 本 な し	235	259	214	98	110	83
か も し き	188	250	160	95	133	64
も も	385	448	357	97	116	80
ぶ い ど う	569	627	567	94	110	90
い ち ご	998	962	1 052	101	96	109
メ ロ ン	408	412	378	103	101	92
す い か	130	161	140	97	124	87
バ ナ ナ	127	126	111	93	99	88
グ レ ー プ フ ル ー ツ	158	146	142	101	92	97
オ レ ン ジ	165	176	178	88	107	101

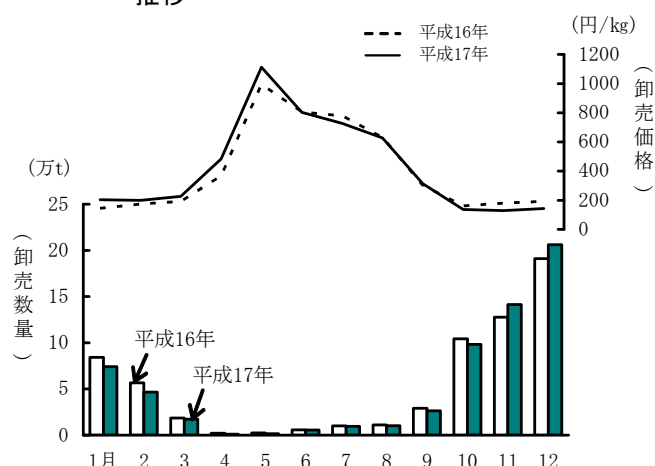
ア みかん

卸売数量は93万 t で、前年に比べ2%減少した。

これは、前年の台風被害により、貯蔵物が少なく、1～3月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、最盛期である11・12月に順調な入荷となったことなどから、前年に比べ11%低下し172円となった。(表7・9、図17)

図17 みかんの月別卸売数量と卸売価格の推移



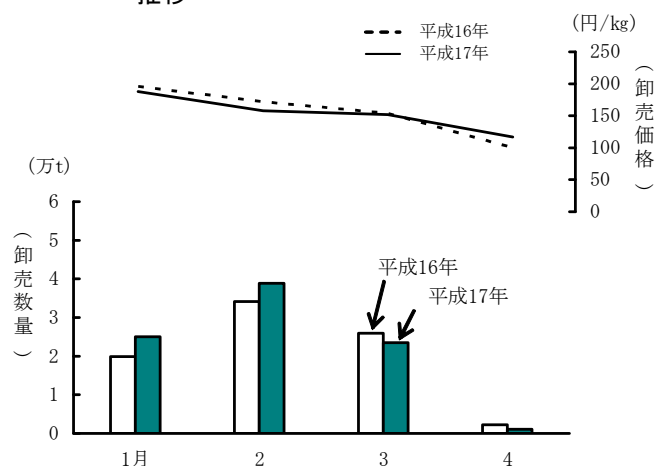
イ いよかん

卸売数量は13万 t で、前年に比べ7%増加した。

これは、主力産地が天候に恵まれ肥大が良く、入荷量が増加したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ4%低下し153円となった。(表7・9、図18)

図18 いよかんの月別卸売数量と卸売価格の推移



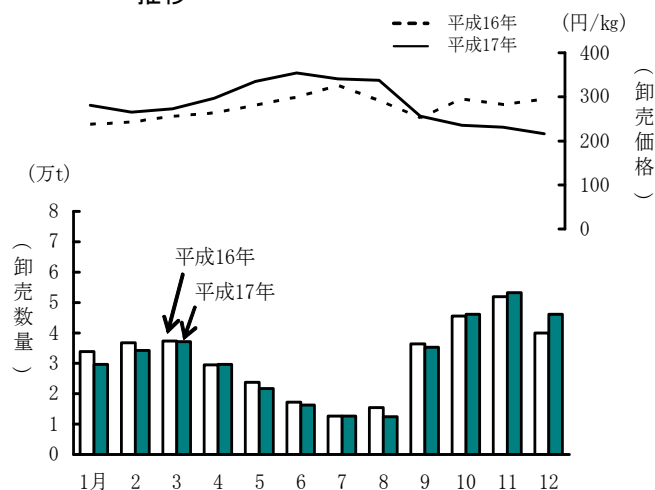
ウ りんご

卸売数量は64万 t で、前年に比べ1%増加した。

これは、前年の台風被害により貯蔵物が少なかったものの、17年産は肥大良好で10月以降に入荷量が増加したことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害がなく、10月以降は順調な入荷となったことなどから、前年に比べ3%低下し241円となった。(表7・9、図19)

図19 りんごの月別卸売数量と卸売価格の推移



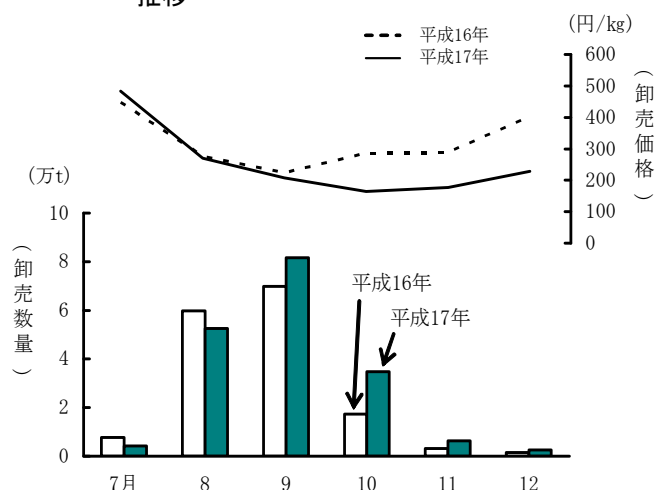
エ 日本なし

卸売数量は25万 tで、前年に比べ14%増加した。

これは、前年のような台風被害がなく、9月以降は順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ17%低下し214円となった。
(表7・9、図20)

図20 日本なしの月別卸売数量と卸売価格の推移



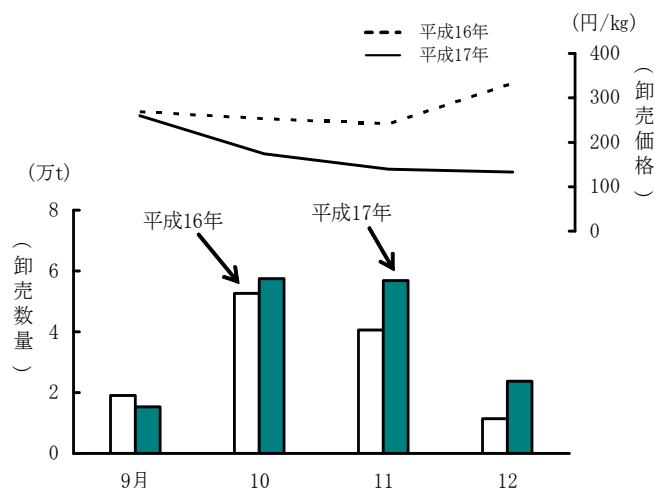
オ かき

卸売数量は21万 tで、前年に比べ21%増加した。

これは、前年のような台風被害がなく、10月以降は順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ36%低下し160円となった。
(表7・9、図21)

図21 かきの月別卸売数量と卸売価格の推移



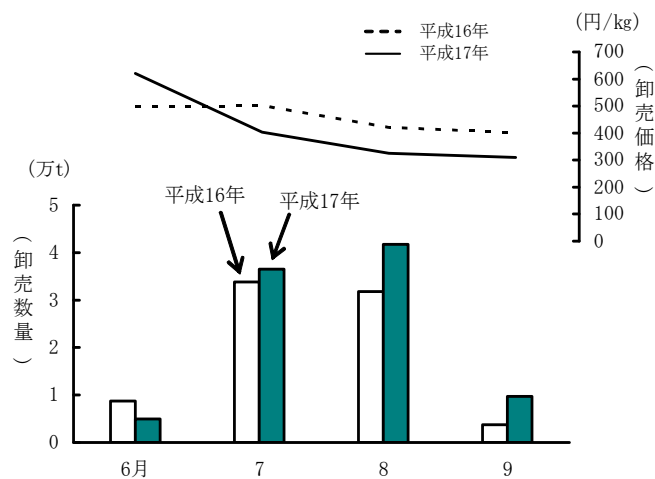
カ もも

卸売数量は13万 tで、前年に比べ19%増加した。

これは、作柄の悪かった前年に比べ、果実肥大期の適雨により肥大が良好で、入荷量が増加したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ20%低下し357円となった。
(表7・9、図22)

図22 ももの月別卸売数量と卸売価格の推移



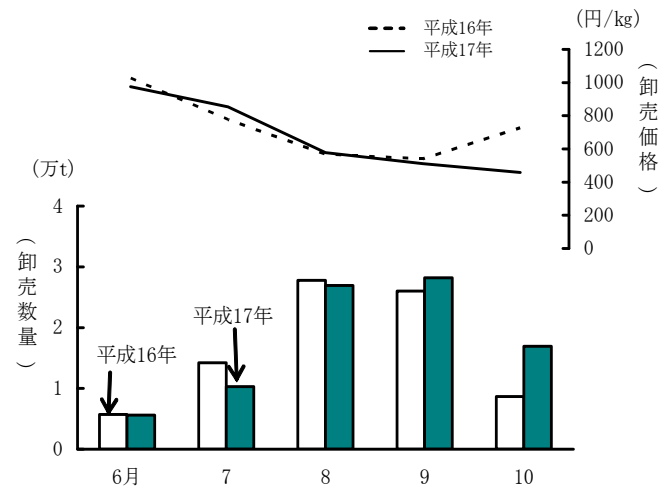
キ ぶどう

卸売数量は13万 t で、前年に比べ6%増加した。

これは、7・8月が前進出荷であった前年に比べ出遅れ傾向だったものの、9・10月が作柄の悪かった前年に比べ順調な入荷となったことなどによる。

卸売価格は、入荷量が増加したことなどから、前年に比べ10%低下し567円となった。(表7・9、図23)

図23 ぶどうの月別卸売数量と卸売価格の推移



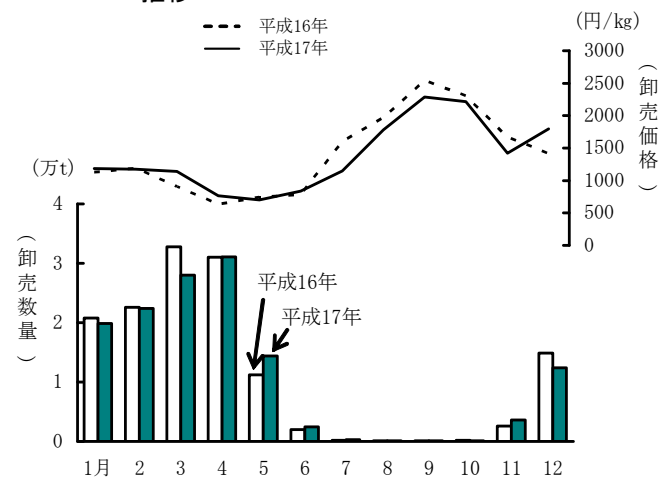
ク いちご

卸売数量は18万 t で、前年に比べ3%減少した。

これは、前年3月のような出遅れ分による入荷がなかったことや、低温、降雪の影響により12月の九州産の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が減少したことなどから、前年に比べ9%上昇し1,052円となった。(表7・9、図24)

図24 いちごの月別卸売数量と卸売価格の推移



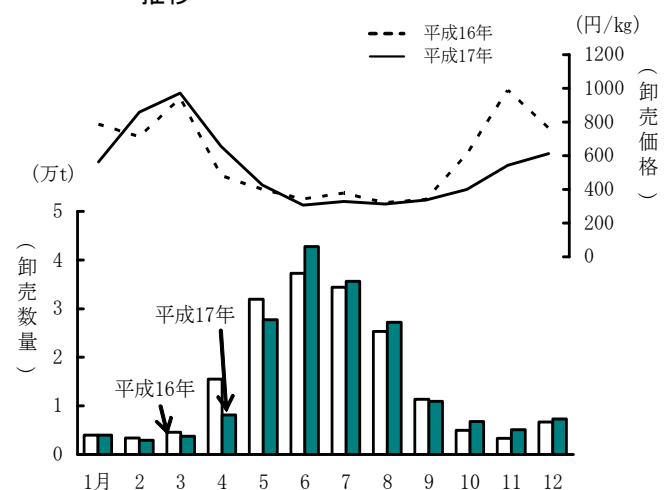
ケ メロン

卸売数量は25万 t で、前年に比べ1%減少した。

これは、6月以降天候に恵まれ順調な入荷となったものの、作付面積の減少や春先までの低温の影響により、4・5月の入荷量が減少したことなどによる。

卸売価格は、前年のような台風被害による価格高騰がなかったことから、前年に比べ8%低下し378円となった。(表7・9、図25)

図25 メロンの月別卸売数量と卸売価格の推移



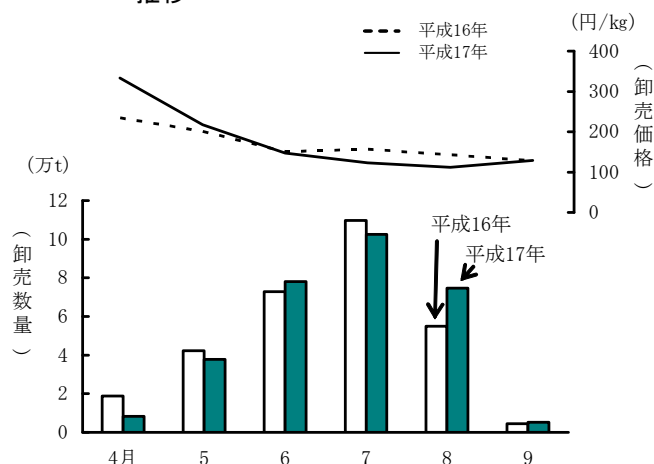
コ すいか

卸売数量は44万 tで、前年並みであった。

これは、春先までの低温の影響等で4・5月の入荷量が減少したものの、8月に生育の遅れていたものが順調に入荷されたことなどによる。

卸売価格は、前年のような空梅雨、猛暑等による需要の高まりがなかったことから、前年に比べ13%低下し140円となった。(表7・9、図26)

図26 すいかの月別卸売数量と卸売価格の推移



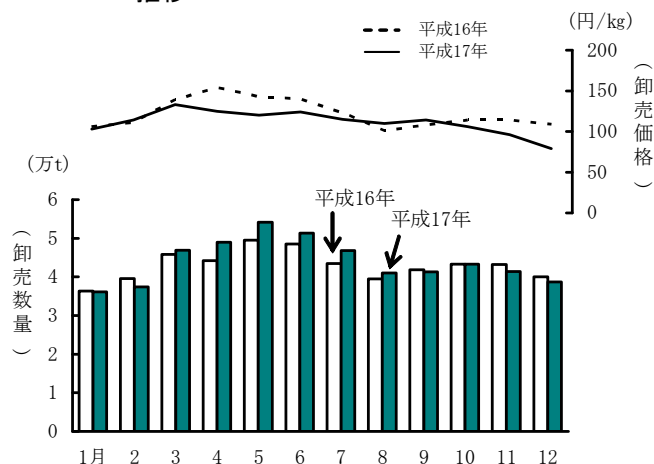
サ バナナ

卸売数量は73万 tで、前年に比べ1%増加した。

これは、11・12月にエクアドル産の輸入量が減少したものの、3～8月にフィリピン産が天候に恵まれ順調に入荷されたことなどによる。

卸売価格は、11・12月の国産果実が潤沢な入荷となったことにより需要が低く価格が低迷したことなどから、前年に比べ12%低下し111円となった。(表7・9、図27)

図27 バナナの月別卸売数量と卸売価格の推移



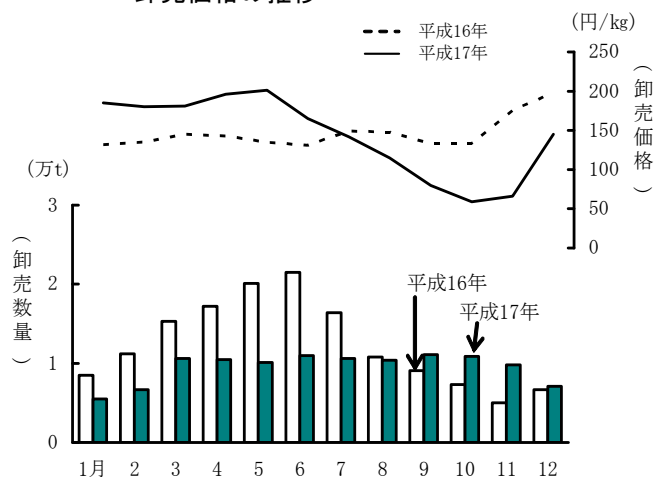
シ グレープフルーツ

卸売数量は15万 tで、前年に比べ22%減少した。

これは、ハリケーン被害により1～7月のアメリカ（フロリダ）産の輸入量が大幅に減少したことなどによる。

卸売価格は、1～7月に入荷量が減少し高値で推移したものの、9～12月に南アフリカ産の輸入量が増加し、価格が低迷したことから、前年に比べ3%低下し142円となった。(表7・9、図28)

図28 グレープフルーツの月別卸売数量と卸売価格の推移



ス オレンジ

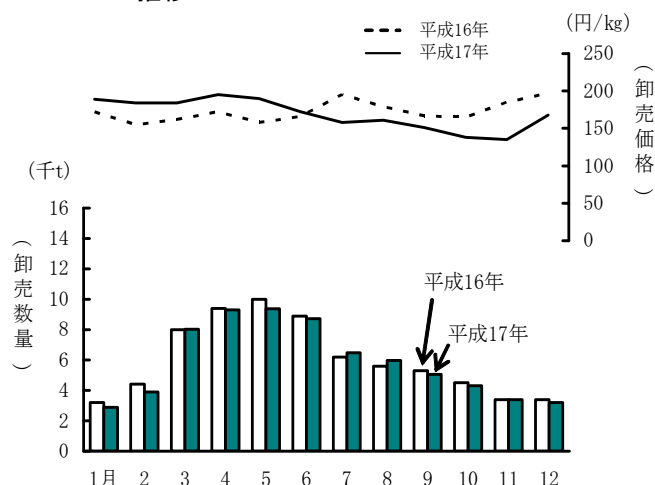
卸売数量は9万tで、前年に比べ1%減少した。

これは、チリ産や南アフリカ産の輸入量が増加したものの、アメリカ（カリフォルニア）産の輸入量が減少したことなどによる。

卸売価格は、入荷量が減少したことなどから、前年に比べ1%上昇し178円となった。

(表7・9、図29)

図29 オレンジの月別卸売数量と卸売価格の推移



参考2 主な果実の輸入国と輸入数量割合（平成17年計）

上段：輸入国名
下段：数量割合（%）

品 目	1位	2位	3位	4位	5位
バナナ	フィリピン 88.5	エクアドル 8.5	台湾 1.4	ペルー 0.4	メキシコ 0.4
パイナップル	フィリピン 98.2	アメリカ 1.1	台湾 0.5	中国 0.2	タイ 0.0
レモン	アメリカ 71.0	チリ 17.6	南アフリカ 8.9	ニュージーランド 1.3	アルゼンチン 1.1
グレープフルーツ	南アフリカ 47.0	アメリカ 45.3	イスラエル 5.1	スワジランド 2.2	チリ 0.4
オレンジ	アメリカ 73.3	チリ 9.9	南アフリカ 9.5	オーストラリア 7.3	ニュージーランド 0.0
さくらんぼ	アメリカ 99.1	チリ 0.8	ニュージーランド 0.0	オーストラリア 0.0	
キウイフルーツ	ニュージーランド 91.4	チリ 7.0	アメリカ 1.0	中国 0.5	
メロン	メキシコ 73.3	アメリカ 23.5	韓国 3.0	ニュージーランド 0.2	ニューカレドニア 0.0

資料：財務省「貿易統計」